一般社団法人まちづくりなみえ
町内コミュニティ再生支援事業
活動広報誌

なみえのいま

第13号
令和6年10月

地域行事で、つなぐ

3年目となった川添盆踊り大会。
今年は初めて夕方から夜にかけての開催となりました。

地域活動の再開

―町内盆踊り２つの再開例―

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故以前、
盆踊りが大変盛んだった浪江町。

町内の各行政区など約30の地域で開催されていた盆踊り。
現在「桶渡・牛渡」「川添」の２ヶ所が盆踊りを再開。
今号では、住民を繋ぐ地域行事をどのように再開、運営しているのか
主催者に話しを聞いた。

樋渡・牛渡の盆踊り

実行委員長　鈴木辰行 樋渡・牛渡区長に聞いた

2015年、樋渡・牛渡行政区にて「八坂神社再建委員会」が発足。
2020年1月、落成記念式典にて神楽と田植踊りが奉納され、盆踊りの再開も検討していたもののコロナで中断。
2022年7月23日、八坂神社例大祭にて盆踊りが再開し、今年で3年目を迎える。

―震災前の盆踊りはどんな感じでしたか？

浪江町内で一番早い盆踊りとして（旧暦6月14日頃に合わせ）7月14日にやるように決まっていて。
地域外からも足を運んでくれる人もいて、昔は男女の出会いの場でもあったのかな。

晴天で日中開催された桶渡・牛渡の盆踊り

笑顔でインタビューに応じる 鈴木さん

―震災後に盆踊りをやろうとなった経緯は？

神社が再建できた際に、なんとか盆踊りをやれないか議論を重ねてきた。
やぐらの状態も心配であったが、再建委員会の寄付金を使い解決できることになり、
そうしたら皆、「盆踊りをやるしかないでしょ！」とやる気になっていったね。

―盆踊り前にやぐらを組み立てたり、準備には苦労されたのでは?

行政区の役員や八坂会、田植踊保存会、住民の方の協力などで前日から進めているが、
町外に避難中の人も多く、自宅を取り壊した人がほとんどで宿泊の問題もある。
いこいの村なみえに料金を払い宿泊している人もいる。

―再開後の大きな違いは、夜ではなく日中の開催ですね。

夜は避難先に帰っていく人がほとんどだからね。
近ごろは猛暑で昼間ではやる方も見る方も大変ではないかという心配もあり、
夜は泊まる所も無いので来る人が減ってしまうような気がして悩んでいます。

―最後に一言。

地域行事は行政区長や役員じゃなくても地域の誰かが一生懸命に
「やりましょう！」って声を出せばなんとかなるんじゃないかなと感じています。

鮮やかな衣装が特徴的な、桶渡・牛渡の田植踊保存会

川添の盆踊り

実行委員 畠山行男 川添北区長、大和田和雪 前川添北区長、佐藤秀雄 上ノ原区長に聞いた

2022年の5月、再建を進めていた国玉神社が竣功。
同年7月、遷宮祭にて神楽が奉納、8月には12年振りとなる盆踊りを再開。
昨年に引き続き、今年も「川添北」「川添南」「上ノ原」「佐屋前」4行政区実行委員会主催による盆踊りを開催。

―３年目に入りました。今の気持ちは？

大和田：前実行委員長の時から、まずは”続けること”を大事にしている。
若い人たちにバトンタッチしながらね。

―震災前の運営や雰囲気はどうでしたか？

畠山　：川添芸能保存会を中心にやぐらの準備を進め、回覧板で1軒500円の
寄付も頂いた。当時、地域内外を合わせ約1,000人程の集客があり、
仮装した盆踊りには多くの人が集まり、子供達もワクワクしていたよ。

(左から)大和田さん、畠山実行委員長、佐藤さん

―実行委員が４行政区で構成されている理由は？

佐藤　：震災前までは各行政区がそれぞれにやぐらを持ち盆踊りを続けていた。
避難した住民が戻っていない中で神社の再建、盆踊りもやるぞとなった
現在(いま)、“大字川添”としての昔の地域・・「原点回帰」という感じかな。

―地域行事再開を足踏みする地域も多い中、ここまでの流れは？

大和田：集客に不安はあったが、国玉神社が再建した以上、盆踊りをやらねばと。
言えるのは最初の気持ち…「やろう」という意思に尽きるかな。
佐藤　：川添芸能保存会が仮設住宅の訪問など、早くから活動を再開していたことも、
我々にとってはとても心強い後押しになった。

―再開後、初となる夜の開催について

（※盆踊りは17時～19時）

大和田：まだ避難中の住民も多く、行き来を考慮し日中の開催で続けてきたが、
神楽がこの酷暑に耐えられるのかという不安もある。
時間帯を夕刻～夜になるように設定したが、どうなるかわからないな。

川添芸能保存会により奉納された「神楽」

夕方開催を決めた今年の盆踊り。結果は盛況であり、来年への期待が感じられた

―最後に一言。

大和田：4行政区がコミュニケーションを図ることで、行政区の再編や将来的な課題など、
今後の取り組みについても話し合いなどを進めやすくなるのではと感じています。
佐藤　：帰還者も少なく、行政区の区費を取ることもできない状況の中、町の補助金を活用し盆踊りを運営できている。
こういった支援がもう少し続いてくれれば、地域活動も継続しやすいと思います。
大和田：盆踊りはなんとか継続していきたいと思っています。

“盆踊りに参加する若手の声”

桶渡・牛渡出身、シンガー・ソングライターとしても活動する41歳　矢野雅哉さん

やぐらの上で歌う矢野さんと、側で見守る鈴木さん

鈴木区長に「盆踊りの唄を歌い継いで欲しい」と任命され、快諾させて頂きました。
田植踊りにも混ざっていて、地元の人も喜んでくれています。
”矢野がやっているなら自分も混ざってみよう”と、
若い人も気軽に一緒にやってくれたらと思っています。

町の動きを紹介します！

「津島でも盆踊り」

任意団体つしま芸能祭実行委員会が主催する「つしま夏まつり」が8月に開催されました。出店や音楽ライブ、南津島郷土芸術保存会メンバーによる民俗芸能の披露のほか、笛や太鼓でお囃子を演奏する盆踊りも室内でおこなわれ、14年ぶりとなる踊りの輪で集まった約200人のお客さんと盛り上がった1日となりました。

「コメづくり再開へ向けて」

室原にて特定復興再生拠点の避難指示解除後2回目となる田植えがおこなわれました。昨年に続き30名近い住民の方が避難先などから集まり、笑顔で作業を進めました。夏には蛍も飛んでいたそうです。大堀地区の末森や、津島地区でも復興拠点の水田で14年ぶりの田植えがおこなわれるなど、少しずつですが営農再開へ向けた取り組みが進められています。

「整備が進む復興祈念公園」

国と福島県が浪江・双葉の両町に整備を進めている復興祈念公園。工事状況を両竹地区内に設置されている見晴らし台から確認できます。高さ16.5メートルにも及ぶ大きな「追悼と鎮魂の丘」を整備していることが特徴で、内部には展示施設などを設ける「追悼・祈念施設」の工事も始まっています。復興祈念公園は2026年春の完成を目指し整備が進められています。

「住民が楽しく交流」

北幾世橋で居住者の交流を目的としたお茶っこ交流会が8月末に開かれ、20名ほどが集まりました。ゲーム、ニュースポーツなどを室内で楽しみながら、ご近所同士のコミュニケーションを深めました。今後は災害に備えた防災組織の立ち上げなども検討されており、参加した区長らが「ぜひ一緒に取り組んでいきましょう」などと呼びかけをおこないました。

なみえのいま　第13号（令和6年10月1日発行）
発行・編集：一般社団法人まちづくりなみえ　町内コミュニティ再生支援事業
〒979-1513　浪江町大字幾世橋字大添52-1
Tel：0240-23-7530　Fax：0240-23-7531　HP：http://www.mdnamie.jp/

当事業の活動広報誌「なみえのいま」は年度内2回（10月と3月）発行しています。
町内では道の駅なみえやふれあい交流センター等にも配置しています。

▼HPはこちら

バックナンバーもHP内に掲載